

第2次国際都市いづか推進計画 概要

基本理念

人とまちと世界がつながる 国際都市いづか

～ 外国の方、障がいのある方、ご高齢の方、子ども達、全ての方に優しく、温かい飯塚市の実現 ～

指標 (KPI)	基準値	目標値 (2026年度)
市内在住外国人の数	1,446人 (2021.9.30時点)	2,000人

社会情勢 グローバル化、外国人住民の増加・多国籍化、新たな在留資格「特定技能」の創設、多文化共生社会実現の動き、デジタル化の進展、気象災害の激甚化、新型コロナウイルス感染症の影響

解決すべき課題 少子高齢化、労働力不足、地域経済の低下

●新たに追加(公表)する事業・KPI

1. 多文化共生

理解と尊重により、差別や偏見の無い温かな心を育て、外国人に優しく住みやすいまちを目指し、国際化を推進していく。【連動するSDGsの17ゴール】

①国際理解の推進

○地域における国際理解の推進【4、10、17】

※参加者アンケート満足度 85%⇒85%

●学校における国際理解の推進【4、10、17】

※参加者アンケート満足度 100%⇒100%

②多文化共生の地域づくり

○多文化共生イベントの実施【4、10、17】

市民イベントの参加者数 1,000人⇒1,500人

●外国人に対する人権擁護の推進【4、10、17】

啓発講演会や研修会等の参加者 240人⇒300人

③多言語による情報発信

○多言語による情報発信【9、11、17】

国際交流のHPアクセス数 1,472件⇒3,000件

○市のPR情報や看板等表記の多言語化【8、17】

④外国人への生活支援

○外国人児童生徒教育支援事業【1、4、10、17】

外国人児童生徒への通級指導対応率 100%⇒100%

●外国人の窓口ワンストップ化【10、17】

外国人窓口の相談件数 105件⇒120件

○空き家情報バンク事業【11、17】

●日本語教室運営事業【4、10、17】

日本語教室参加者数 480人⇒600人

●外国人留学生支援事業【8、10、17】

生活支援事業における留学生の相談者数 7件⇒10件

2. 国際交流・経済交流

市民や団体、企業などが国際交流・経済交流を通じて、魅力の向上や新たな活力を生み出し、国際化を推進していく。【連動するSDGsの17ゴール】

①姉妹・友好都市との交流

○姉妹都市交流推進事業【4、10、17】

参加者アンケート満足度 85%⇒85%

●グローバル人材育成研修事業【4、10、17】

グローバル人材育成研修の参加者数 20人⇒20人

②教育・スポーツを通じた交流

○飯塚国際車いすテニス大会支援事業【3、4、8、17】

車いすテニス大会の観戦者数 11,000⇒11,600人

○オンライン英会話【4、10、17】

アンケート調査での「できる」「たぶんできると思う」の合計 76%⇒90%

●外国人講師等派遣事業【4、10、17】

小学3・4年生に年5回派遣、全中学校に巡回派遣 100%⇒100%

③経済交流の推進

●海外展開支援事業【8、9、17】

海外展開を支援した市内企業数 - ⇒10件

●外国人雇用支援事業【8、9、17】

特定技能及び高度人材の人数 90人⇒190人

●起業家育成事業【9、17】

学生等への補助金の交付件数 8件⇒15件

④国際観光の推進

○観光集客推進事業【8、17】

●訪日外国人観光客受入れ環境整備事業【8、16、17】

市内主要観光施設への無料無線LANの整備数 3か所⇒6か所

国際都市づくりの意義

ひとつり

- ①外国人との交流により飯塚市の魅力である自然、文化、歴史を再認識する
- ②異文化への理解を深め、外国人とふれあい、差別や偏見のない思いやりのある心を育む
- ③国際感覚を養うとともに、国際的な視野を持って活躍できる人を育てる

まちづくり

- ①異文化との交流によって、新しいまちの魅力や活力を生み出す、元気な地域づくりの推進
- ②地域経済・産業の活性化に向けた、海外との経済交流の推進
- ③安全で安心な、外国人にも優しく暮らしやすいまちづくりの推進

イメージ図

多文化共生が基礎や土台となり、その実現を通じて、充実した国際交流や経済交流が行われると考えます。よって、木で例えるなら多文化共生は「幹」に、国際交流や経済交流はその幹から伸びて生い茂る枝葉として表現しています。

